

統計ニュース

〈報道各紙掲載記事より抜粋〉

《国内・国際》

8/8 人口 過去最大 26万人減

総務省は7日、住民基本台帳に基づく2012年3月末時点の人口動態調査を公表した。全国の人口は、前年同期より26万3727人(0.21%)少ない1億2665万9683人で、3年連続の減少だった。減少の数、率とも過去最大。少子化に歯止めがかからず、出生者数は4年連続で減り104万9553人で集計を始めた1980年以降最低。死亡者数は125万6125人と最多を更新し、死亡者数が出生者数を上回る「自然減」は20万6572人と初めて20万人を突破。人口減社会の加速を裏付けた。ちなみに山口県は9928人減の144万5473人だった。

8/11 食糧自給率 39% 2年連続 40%割れ

農林水産省は10日、2011年度のカロリーベースの食料自給率が39%となったと発表した。40%割れは2年連続。東日本大震災の影響で魚介類の水揚げが落ち込んだ。四捨五入前の数値は38.6%、2010年度の38.8%を下回り、米が大凶作となった1993年度の37%に次ぎ過去2番目に低い水準となった。2010年度に農家の経営安定と自給率向上のためコメで先行実施し、2011年度には小麦や大豆などの畑作物も対象に加えて実施された、個別所得補償制度も農水省が期待したほどの効果は出ていない。

8/18 2011年度 介護職員 離職率 16.1%

厚生労働省が所管する財団法人「介護労働安定センター」が17日に公表した2011年度介護労働実態調査で、介護職員の離職率が16.1%と前年度比1.7ポイント減となり、2年ぶりに改善したことが分かった。景気低迷に伴う雇用環境の悪化で、転職が難しくなっていた状況が背景にあると考えられる。ただ、従業員の過不足状況をみると「大いに不足」「不足」「やや不足」の合計は53.1%で2010年度より3ポイント近く悪化。センターは「待遇の厳しさが影響し、新規参入組が減少しているのが一因」と話している。調査は昨年11月に実施。全国1万7151施設のうち、7070施設から回答があった。

8/28 大卒新卒者 非正規と未定 23%

今春の大学卒業者のうち、非正規雇用での就職やアルバイト、進学も就職もしない人を合わせた「安定的な雇用には就いていない人」が12万8224人に上り、22.9%を占めたことが27日、文部科学省の学校基本調査速報で分かった。大卒者55万9030人のうち就職した人は35万7285人。契約社員など非正規雇用が2万1990人(卒業者全体の3.9%)、進学も就職もしないものが8万6638人(15.5%)、アルバイトなどは1万9596人(3.5%)となり、文科省はこれらの者を「安定的な雇用には就いていない人」として集計した。なお、進学も就職もしていない人のうち、就職準備などもしないニートに相当するのは3万3584人に上った。

《県内》

8/3 全国学力テスト 国語、算数・数学で7科目 理科2科目 全国平均上回る

文部科学省が8日に公表した全国学力テストの結果で、県内の公立校の小学校6年と中学3年の国語、算数・数学の平均正答率は、基礎と応用の全8科目のうち7科目で全国平均を上回り、本年度から実施された理科も全国平均を上回った。調査は、基礎知識をみる問題を中心にした国語Aと算数・数学A、学んだ知識の活用力をみる国語B、算数・数学B、知識と活用を一体的に出題した理科で実施。小学6年は算数Bが唯一、全国平均を0.9ポイント下回ったが、他の4科目は0.2~0.7ポイント上回った。中学3年は国語、数学の4科目で0.1~1.6ポイント上回った。テストは文科省が抽出した県内98小学校の児童3745人と、80中学校の生徒5948人が4月に受けた。

8/25 高校生 求人倍率 0.9倍

山口労働局は24日、来年3月に卒業する県内の高校生(約1万2450人)の7月末現在の求人・求職状況を発表した。就職希望者数3535人(前年同期比0.5%減)に対し、求人数は3178人(同4.4%減)。求人倍率は0.9倍で前年同期に比べ0.04ポイント低下した。県内での就職希望は2875人(同1.7%減)、県外は660人(同5.1%増)。一方、求人のうち県内の事業所は1966人(同2.8%減)、県外は1209人(同7.1%減)だった。同局は、「厳しい雇用情勢が続いているが、今年は半導体関連メーカーの工場閉鎖などの影響を受けている可能性がある。今後、求人開拓をしていく中で影響を注視したい」と説明している。